

「医療通訳実践論」シラバス 2015 Practical Medical interpreting

木曜日2限（10：30-12：00）

10/1（木）のみ「最先端医療イノベーションセンター棟2階 セミナー室A（0224）」

10/8（木）以降「医学部講義棟2階 講義室2」

医学系研究科 国際・未来医療学講座・教授・中田 研

（講師：中田 研、南谷かおり、史 賢林、小笠原祐希子、中村安秀など）

【講義目的】

在住外国人は定住化傾向にあり、在留カードをもつ人は200万人を越している。訪日外国人は急速に増加し、2014年は1,341万人の外国人が日本を訪れた。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、外国人が医療機関を訪れる機会が激増している。

外国人および日本語ができない人を対象に、安全で安心できる医療ケアを提供するためには、保健医療分野に造詣の深いプロフェッショナルな通訳士が必要である。国際医療サービスの提供において、受付や会計支払い、外来および入院病棟での病歴・主訴・診断告知・治療方針の説明、手術やがん告知などのインフォームド・コンセントと承諾書など、通訳士の存在が必要になる場面は枚挙にいとまがない。

本講義では、コミュニケーションを支援する専門職としての医療通訳者の基盤を学ぶことを目的としている。「医療通訳士倫理規程」に基づき、守秘義務、正確性、公平性の確保など医療通訳士としてのコア到達目標を満たすべく、知識、技術、倫理、能力向上などの分野について、講義、グループワーク、ロールプレイを活用して理論と実践を結びつける。

なお、本講義は、大阪大学大学院等高度副プログラム「医療通訳 (Medical Interpreting)」の必修科目に指定されている。

【講義内容】

本講義では、医療通訳に関心をもつ院生に対して、①医療通訳士に必要な知識を有する、②医療通訳士に必要な技術を有する、③医療通訳士に必要な倫理を有する、④医療通訳士としての能力向上に努める、ことをめざしている。

講義は、オムニバス形式で進められる。講師は医師、看護師、医療通訳士、NGO関係者などから構成される学際的な講義である。

【教科書】

「医療通訳士という仕事」（中村安秀・南谷かおり編著）（大阪大学出版会）2013年

「医療通訳と保健医療福祉」（李 節子編集）（杏林書院）2015年

【参考図書】とくになし

【成績評価】

平常出席点70%および課題レポート30%

【講義日程】

10月1日	イントロダクション	(中田研・中村安秀)
10月8日	知識(異文化理解、多文化共生など)	(牧本清子)
10月15日	医療通訳と倫理の必要性	(村松紀子)
10月22日	倫理規程を読み解く	(飯田奈美子)
10月29日	コミュニティ・ビジネスとしての医療通訳	(李裕美)
11月5日	外国人の立場から見た医療通訳	(中萩エルザ)
11月12日	外国人エイズ相談から学んだこと	(エレーラ・ルルデス)
11月19日	病院見学(大阪大学病院国際医療センター)	(中田研)
11月26日	医療通訳に必要な技術(院内文書・基本用語)	(史賢林・小笠原祐希子)
12月3日	医療通訳に必要な技術(病院内での連繋など)	(南谷かおり)
12月10日	ロールプレイ1	(竹迫和美)
12月17日	ロールプレイ2	(新垣智子)
1月7日	レポート発表	(中村安秀)
1月14日	レポート発表	(中村安秀)
1月21日	まとめ	(中田研・中村安秀)

【課題レポート】

- 1) 「医療通訳士倫理規程」の9つの条文の中から1つを選ぶ。
- 2) 自分が選んだ条文の意義について、下記のような方法を用いて自分の意見をまとめる。
タイトルや小見出しは自分で考えること。
 - ・関連文献や種々の報告書を読むといった文献のレビューを行う
 - ・現場での外国人医療に関する経験あるいは自分の研究分野と関連づける
- 3) 分量は、A4用紙3枚以内。
- 4) 締切は2015年12月17日(木)